

かんたん年表

### 西地域の平成史

- 平成元年4月 鶴瀬西図書館（現在の富士見市立）  
（1989年） 図書館鶴瀬西分館）開館
- 平成4年2月 鶴瀬西公民館増改築完了  
（1992年）
- 平成4年11月 鶴瀬駅西口区画整理事業が  
（1992年） 認可・事業計画決定
- 平成7年9月 ミニ鉄道公園リニューアル  
（1995年）
- 平成9年10月 江川プロムナード完成  
（1997年）
- 平成17年9月 鶴瀬西公民館 閉館  
（2005年）



西交流センターができる前にあった鶴瀬西公民館

- 平成17年11月 鶴瀬西交流センター 開館  
（2005年）
- 平成18年3月 鶴瀬西小学校と  
（2006年） 上沢小学校が閉校
- 平成18年4月 つるせ台小学校 開校  
（2006年）
- 平成18年10月 第1回鶴瀬西交流センター  
（2006年） フェスティバルの催しとして  
つるせよさこい祭り 初開催
- 平成21年 つるせ台小学校新校舎使用開始  
（2009年）
- 平成22年9月 ミニ鉄道30周年記念運転会  
（2010年）
- 平成23年3月 東日本大震災 鶴瀬西地区でも  
（2011年） 計画停電など生活に影響
- 平成23年3月 つるせ台公園完成  
（2011年）
- 平成26年7月 上沢公園完成  
（2014年）
- 平成30年3月 つるせ西ゆうゆうの丘公園完成  
（2018年）



上沢小学校（平成18年閉校）の校舎



上沢公園（平成26年完成）

区画整理事業は、西口開設と同時進行で進めることが条件の一つとされていた都市計画の一部で、平成4年ごろに動き出したと記憶しているそうです。それから26年を経過し残りわずかです。計画が完了となりますが、大変な大仕事であったとのこと。時代と共に大きく様変わりした鶴瀬西地区を見るにつけ、地域の利便性や価値を高めることが出来ることを、身をもって体験したそうです。新元号「令和」の時代、西地域がさらなる発展をとげることを願います。



鶴瀬西小学校（平成18年閉校）校庭

上沢公園ができる以前はその場所に上沢小学校がありました。春になると桜の花が満開になりとても見事で、二フトリやウサギやヤギが飼育されており、とてもほのほのしていました。地域の方からも親しまれていました。

朝の登校のあいさつ「おはようございます」の子どもの元気な声や、子どもたちの元気な声が響いて、今日の授業は何があるのかなと耳を澄ませて、聞かえてくる音楽や体育などの元気な声が心地よかったです。記憶があります。運動会やたぐさんの行事など思い出が詰まった小学校が統廃合で無くなってしまったのがとても寂しく、子どもたちの元気な声が聞こえなくなるのがとても残念でしたが、上沢公園ができて子どもたちのにぎやかな声が戻ってきたのもうれしいです。地域の方々にとっても、憩いの場所になっています。

上沢小から上沢公園へ  
井之川編集委員

# 令和時代の節目

## 昭和の理想と

### 大正と



現在の鶴瀬駅西口駅前

### 父と迎える新時代

堀口編集委員

私の父は、大正13年生まれで、平成最後の年明けで満95歳になりました。大正、昭和、平成と3つの元号を過ごし、また新たな元号「令和」の時代を生きることにあります。陽射しの良い暖かい日、庭先で各時代の記憶について話を聞きました。昭和で大きな事柄として記憶にあるのは、戦争であり、人々の困窮と生きるがための力強さを思い出すそうです。父も戦時中、海外への夢を描いて、横浜の港へ幾度となく足を運んだそうです。その後、わずか14歳で、生きぬくことと夢を追うために海運会社に入社しました。物資輸送で訪れた青島は、以前ドイツの租借地であったため、ドイツ風の高級住宅が建ち並んでいました。日本国内とは大きくかけ離れたその光景を目の当たりにして驚いたことが、昨日の事の様に思い浮かぶそうです。

そして、鶴瀬西地域の出来事で特に記憶に残っているのは、昭和では鶴瀬駅西口の開設、平成では区画整理事業だそうす。

西口開設の機運が高まったのは、駅前地主の方々の理解と、協力により東武鉄道が用地を確保した昭和39年ごろのことです。その後紆余曲折を経て、昭和55年に開設されたそうです。

区画整理事業は、西口開設と同時進行で進めることが条件の一つとされていた都市計画の一部で、平成4年ごろに動き出したと記憶しているそうです。それから26年を経過し残りわずかです。計画が完了となりますが、大変な大仕事であったとのこと。時代と共に大きく様変わりした鶴瀬西地区を見るにつけ、地域の利便性や価値を高めることが出来ることを、身をもって体験したそうです。新元号「令和」の時代、西地域がさらなる発展をとげることを願います。

日本全国と同じように、鶴瀬西地域も平成時代は、小売の商店が衰退した時代だったと思います。昭和の終わりから平成にかけて駅の西側には10の商店会がありました。同時にスーパーマーケットもでき始めました。

三芳町との境目にできたボウリング場も、忠実屋になり、その後ダイエーになりました。家電量販店もありました。駅の近くの、いまはライオンズマンションになっているところには東武ストアができ、中には家電量販店やレコード店も入っていました。団地にも団地の商店街があり、このころが一番、町がにぎわっていた気がします。

平成になってパブルの崩壊が始まる中、西口駅前の大規模な区画整理が始まりました。

平成5年からは第1団地、第2団地がURによって高層住宅化しました。小学校の統廃合によってつるせ台小学校ができましたし、鶴瀬西交流センターも開館しました。つるせ台公園、上沢公園、つるせ西ゆうゆうの丘公園と、大きな公園もできました。

街の様相はかなり変わりましたが、新しくできた鶴瀬西通り線には商店がほとんどできず、きれいになった駅近くの通りも小売店がほとんど減ってしまったことは、寂しいと感じます。区画整理にかからなかった住宅地は、建て替えもありませんが道路は狭く、放置空き家も増えています。

高齢化の時代を迎え、もっとお年寄りが住みやすい地域にしなければと思います。いろいろな課題があると感じます。

次の時代は、それらの課題が解決に向かうことを期待せずにはられません。

### 変わりゆく街並み

笠原編集委員

5月1日は、新しい元号「令和」の始まりの日です。つるせ西だより編集委員会では、昭和、平成と続いてきた西地域のこれまでの歩みについてを振り返って見ました。平成、そしてそれより昔の記憶や想いについて、3人の編集委員が綴ります。